

名前：井岡 信三さん 享年 51 歳

<b>【略歴】</b>	
①1952年3月 山形県に生まれる	⑥2001年 事業不振に陥り、負債膨らむ
②1967～1970年 高校中退、実家の配管業手伝う	⑦2002年5月 自己破産
③1982年 配管工事の事業立ち上げ	⑧2003年3月 妻子が家を出ていく
④1991年3月 前妻を末期癌で亡くす	⑨2003年5月 妻に離婚を切り出される
⑤1991年10月 再婚	⑩2003年5月 自室で首を吊って亡くなる
<b>【人柄】</b>	
自分を偉大だと思う気持ちが高く、人から指示されることを嫌がるワンマンな性格。前妻の病気治療中から、「今の妻が亡くなって、子どもが出ていったら一人ぼっちになる」と、不倫していた妻に打ち明けるなど、孤独を恐れる傾向があった。事業不振に追い込まれた時には、周囲が自分を騙しているのではと対人不信になったこともある。	
<b>【自殺に至る経緯】</b>	
1967年～1982年 高校中退、配管工に。30歳で配管工事業立ち上げ 高校を中退し、父親が営んでいた配管業を手伝う。20歳で一度目の結婚をし、長男が誕生。1982年に30歳で独立。配管工事の事業を立ち上げる。後に上場し、長男も勤務するようになる。	
1990年 妻の闘病中、別の女性と交際 末期癌を患った妻がいながら、女性と出会い、交際が始まる。「妻が亡くなったら家に来てね」と言っていた。	
1991年3月～10月 妻が亡くなり、再婚 妻逝去。6月には前述の女性と同居し、10月に再婚。妻にも連れ子がいて、5人家族に。会社の業績も良く、資金繰りの目途も立っていた。社員50人を擁する中小企業の社長として、ポルシェやフェラーリを買う余裕もあった。	
1998年10月 業績に陰りが見え始める 長男の結婚式。披露宴は取引先会社を招くため、総額1千万円以上かかった。祝儀で足りない分は、銀行からの借りで賄う。この頃、平成不況の煽りを受け、業績に陰りが見え始める。決算期になると「ダメになるかもしれない」と言いながら、貸し付けてくれる銀行を探して歩き回った。妻にも保証人を頼む。	
2001年 事業不振で負債膨らむ 事業不振で、負債が2億円に。契約が取れず、給与も滞った。50人いた社員は2人に減り、長男も退社。井岡さんは「みんな俺を騙した」と、対人不信になる。公共料金が払えなくなり、保険料の滞納から健康保険証を失う。妻に「家族を殺して俺も死ぬ」と言ったり、「倒産したい、つぶしていいか？」と言う。妻が働くことはプライドが許さなかった。生活や今後について親戚、県議会議員に相談する。県議会議員のついで、東京の闇金融に借金をしに行く。	
2002年4月 生活が追い込まれる 取引先は2社になり、かろうじて生活費と社員2人分の給料を確保する状況。テレビで競売にかけられた家を見て、「うちもあなるんだな」とこぼす。給食費が払えず、子どもの小学校通学が困難に。井岡さんはそのことについて、あまり関心を持たなかった。社会福祉事務所に妻が相談に行き、「あなたは子どもの人生を守らなきゃならない。ご主人の人生までは背負えないでしょ」と言われる。妻は井岡さんから離れては生活できないと思っていた。	
2002年5月 自己破産 債務の件を弁護士に相談し、自己破産する。	
2003年3月 自宅が競売にかけられる 自宅の競売が決定。1000万円で落札され、引き渡す予定になった家を、井岡さんが夜中に壊し始める。	

常軌を逸した者が  
事業不振の陰謀  
での相違しは...  
早い決断をサポート

## 2003年 妻子が家を出る

持てるだけの荷物を持ち、妻子が家を出る。子どもは当時、小学5年生・3年生・幼稚園の年中。妻は、子どもを学校に行かせた際に井岡さんにとられると思い、行かせなかった。2日後に一度家に戻ってくる。

## 2003年4月 妻子がDV緊急一時保護施設へ

井岡さんの「もう働きたくない」という言葉で、妻は離婚を決意。井岡さんが拳銃を持っていることを社会福祉事務所に相談し、DV緊急一時保護を受ける。保護施設へ移動後、子どもたちは「お母さんをいじめるお父さんは嫌い」と言った。井岡さんは警察や妻の実家を訪ねて家族を探したが、保護中の家族の居場所は、誰にも教えてもらえなかった。

## 2003年5月上旬 亡くなる4日前 妻に離婚を切り出される

妻が保護司同行の一時外出中に、井岡さんの携帯に「離婚したい」とメール。「離婚しない」という返信に続いて、「好きなこと何もしない。帰ってきてくれ」とのメールも届く。

## 2003年5月上旬 亡くなる3日前 自死を決意

「俺は5月●日に死ぬことにした」とメール。携帯を偶然見た子どもが「パパ死なないで」と返信。翌日、井岡さんから「俺が死んだら5千万円入る」とメールが来る。

## 2003年5月上旬 自死

妻が「もう終わった…」とホッとしていたところに、施設職員から井岡さんの自死を知らされる。寝室のクローゼット内で首を吊って亡くなっているのを、会社の従業員が発見。ロウソクと前妻の遺影が置かれていた。遺書には「家も金も家族もなくなって、もう生きていけない。1日早く死ぬことにした」とあった。

## 【特記事項】

- ・健康保険証がなかったため、公的医療機関での受診が不可能だった。

## 【自殺の危機経路】

